

視察報告書

研政会

・井戸達也・古田純也・立崎聡一

テーマ 廃棄物中間処理について

期日 令和7年3月24日

場所 道央廃棄物処理組合焼却施設・千歳市根志越2533番地の1

内容 道央廃棄物処理組合概要は別紙のとおり。



道央廃棄物処理組合は、施設の設置、管理運営に関することを目的とし設置され、令和4年に組合事業に最終処分場の設置、管理、運営を加えていた。

2市4町の可燃ごみ焼却の考え方は整っており、各市町の新しい技術で建設する焼却施設に対するアレルギーはなかった。また、近隣住民からのダイオキシンに対する不安の声はあったものの、ダイオキシン対策の基準が厳しくなっており、近年の技術革新もあり、丁寧に説明することで大きな反対はなかった。

現状のメリットとは広域によるスケールメリットを活かし環境負荷の低減、経済的負担の縮減、ごみ減容化による最終処分場の延命化が図られる。また、水蒸気タービンによる発電量が予想以上で売電収入が大きく、運営コスト削減にも非常に有効である。現状のデメリットは、関係市町によっては、原料の輸送コスト上昇が考えられるが、効率的な輸送方法をすでに実験的に取り入れられていたことは、見逃せない。

道央廃棄物処理組合までの行きかえりのタクシードライバーにお話しも伺うことからわかったことは、「ゴミ分別作業の変更もなく、料金も変化はない」「分別が楽になった」と言われてました。今までと変わることなく、住民の分別作業が楽になったということの意義は大きく、私たちの目指すべき姿の手本と考えて良い事例の一つであると思いました。

視察報告書

研政会

・井戸達也・古田純也・立崎聡一

テーマ 移動期日前投票所の導入について

期日 令和7年3月25日

場所 浜田市議会 第4委員会室・島根県浜田市殿町1番地

内容 投票所統合地域における投票機会確保対策。詳細は別紙。



島根県浜田市は平成17年10月に浜田市、三隅町、金城町、旭町、弥栄村の1市3町1村が合併した。合併当初105か所の投票所。平成22年に行革からの投票所の統合、78カ所。平成28年人口減少、立会人不足から70カ所、令和3年地元要望から68カ所。投票率の低下を避けるべく取り進められている事業で、その効果は果たしている。特に中山間ちいきにおけるこの取り組みは、各投票地区において投票率の低下を阻止するだけではなく、資料を見る限り地域コミュニティとしての役割も担っていることが伺える。その一方で人口減少のスピード感は加速度を増していることも事実であり、現状取組まれている団体も各選挙ごとに増加している。全国初の浜田市の実施から令和元年参議院選挙時で33団体、令和4年の参議院選挙時で88団体と増加していることは人口減少の速さを物語るものである。今後当市も移動期日前投票所の様な取組も視野に入れて投票率の向上を目指していかなければいけない。

視察報告書

研政会

・井戸達也・古田純也・立崎聡一

テーマ 若者の定住について

期日 令和7年3月25日

場所 三宮神社・島根県浜田市相生町1571

内容 石見神楽を創り出した町。詳細は別紙。



＊「どんちっち」とは石見神楽のこと

島根県はかつて「隠岐国」「出雲国」「石見国」に分かれていた。そこには豊かで様々な文化があり、今でも残されている。石見の中央に位置する浜田市は、ユネスコ無形文化遺産、国指定重要無形文化財の「石州半紙」や「石州和紙」を用いた「石見神楽面」「石見神楽蛇胴」「石見神楽衣装」「石見神楽花火」などの伝統的なモノづくりは「石見神楽」において欠くことのできない文化として根付いている。

石見神楽の大きな特徴は、伝統を大事にしながらも、時代とともに変化することも受容し、地域や団体ごとにある個性を持つところです。神社への奉納神楽を大事にし、伝統を大切に舞や文化を継承するだけでなく神楽大会やイベント、コラボ企画等にも出かけていくことも石見神楽ならではの

現在、島根県石見地域には130を超えるかぐらだんたいがあります。その中で50以上の団体が浜田市に存在し継承されている。

その担い手はそこに暮らす住民であり就学前の子供から70代、80代の重鎮までが継承活動に携わり、学業や生活を送りながら練習に励み奉納や公演を通じ地域の宝の継承と発展に力を注いでいる。それぞれの地域で子供神楽団体の結成や加入が起こることで支援する動きも高まりサポート団体や企業が企画する子供神楽大会も開催。市内高校には部活動として取り組む高校もあり多くの若者が石見神楽に関わることを理由に地元浜田市に残ることを決断。若者の定住やUターンにも大きな役割も果たしている。